●マナー講座開催　第1学年インターンシップに向けて！

２月８日（月）から３日間、インターンシップ（職場体験）を実施します。その事前準備はすでに２学期後半から始めており本格化してきています。その準備の一環として、（株）さんぽうの専任講師の田代和子先生においでいただき、ビジネスマナーについてマナー講座を開催しました。田代先生は、日本航空国際客室乗務員として勤務された経験を元に、専門学校、短大、高校で一般常識やビジネスマナーについて多くの講演会を多くなさっていらっしゃいます。今回も、インターンシップに参加する意義や心構え、注意点について、寒い中でしたが約１時間講演をしていただきました。礼儀やマナー、職場の一員となって仕事に携わる責任感など、内容は詳細に渡って分かりやすくお話いただきました。中でも印象的だったのは、**「身だしなみは自分で決めるのではない、周囲の評価で良し悪しが決まるものだ」**という言葉です。制服を着るときの着こなし方を例にとって、実演も交えながらのお話でした。更に、挨拶の仕方やお辞儀の仕方、言葉遣いなど、実際にやってみながら生徒はビジネスマナーについて理解を深めた様子でした。

（１年副主任：永石美香子）

●伝統工芸士に絵付けの技法を学ぶ！

１月２９日（金）美術・工芸科１年生を対象に３名の伝統工芸士の方々を迎え、陶芸教育（陶磁器の絵付け）を実施しました。事前学習として古陶磁の模写に取り組み、陶工の表現技法を体験し伝統模様の構成を学びました。生徒たちは当日の活動がすぐに始められるように磁器皿に文様の下描きを行いました。実際の絵付け指導では、筆の持ち方や使い方、呉須の濃さや調整方法、磁器皿の持ち方など、本当にきめ細かなご指導をしていただきました。先生方が実演で細く美しい線を描かれている様子に生徒たちから驚きの声が上がりました。１年生１４名は、絵を描くことやものづくりへの興味・関心が高い生徒たちで、指導してくださる先生方から必死に学ぼうとする姿勢がみられ、時間が経つのがとても早く感じました。この事業は伝統的工芸品への理解を深めると同時に、高い技術を持っておられる伝統工芸士の先生方から**「生きた言葉と技術」**を次の世代に伝えていくことができる素晴らしい事業です。本校も守るべき伝統を引き継ぎ、これからの時代を担っていく若者たちの育成に今後も励んでいきたいと思います。　（美術科　立井匡樹）

●外部講師による実技指導！『自分の絵を描く』

永年、県立高校の美術教師として教鞭をとられ、定年退職された後も活躍されておられる小田原久生先生をお招きし、美術・工芸科の２年生を対象に絵画制作の指導をしていただきました。小田原先生は佐世保の出身で現代アートに関する造詣が深く、県北の現代アートシーンの発展に尽力されています。今回は朦朧表現から発想する絵画制作についてご指導をいただきました。導入での表現を深める考え方の説明では、高度な事柄を身近な具体例に置き換えながら分かりやすくお話くださり、生徒たちも集中して聞き入っていました。制作では、**絵具を無意識に塗る中で生まれた濃淡やタッチから、見えてくるものを探して描きこむこと**で、それぞれの個性を感じさせる作品を作り上げることができました。

（美術科　石田　綾）

●新春さわやか挨拶運動！

１月８日から１５日までの期間、ＰＴＡ・母の会の役員の方々にもご協力をいただいて**「新春さわやか挨拶運動」**を実施しました。今年３回目の実施です。寒さを吹き飛ばす保護者の方々からの元気な挨拶に、生徒たちも明るい笑顔と声で挨拶を返していました。一日の始まりが元気よく、明るい挨拶で始まることの素晴らしさを感じました。保護者の皆様、ありがとうございました。

（教頭　小柳勝彦）

〈校訓〉自律・積極・究理

波高通信

〈スローガン〉「チーム波佐見」～常に前進　常に一歩～

第２２号　平成２８年１月２９日発行

校長室より　『当たり前のこと』

昨年１２月に、スターウォーズシリーズ７作目「フォースの覚醒」が公開され、先日私も家族と一緒に観に行きました。懐かしい思いと新鮮な驚きで胸が一杯になりました。シリーズ１作目が日本で公開されたのが、３８年前の１９７８年。私は大学１年生でした。あまりの面白さに衝撃を受けたのを覚えています。C-3PO、R2-D2、チューバッカなどのユニークなキャラクターも魅力的でした。まさに、自分の青春時代の思い出が詰まった映画の一本です。スターウォーズで思い出すのが日本を代表する映画監督である黒澤明です。スターウォーズの監督・脚本を務めたジョージ・ルーカスは、黒澤監督作品の影響を強く受けたそうです。特に、C-3PO、R2-D2は、黒澤映画「隠し砦の三悪人」に登場した農民のコンビを参考にしたといわれています。

黒澤監督は見えない所に細心の注意を払うことで有名です。例えば、「七人の侍」では、「一人の人間が一本の刀で、何十人もの相手を斬るって言うのは嘘だ」と言って、主人公に何本もの刀を地面に立てさせ、何人か斬る毎に刀を替える場面を挿入しています。「赤ひげ」では、部屋の壁一面に作られた薬の引き出しの中に、撮影予定がないにもかかわらず、本物の薬を入れて撮影に臨んだそうです。黒澤映画の一場面一場面の張りつめた面白さは、見えない所まで意識して気を配るという、プロとしての強い責任から生まれてきたのだと思います。私は、黒澤映画を見るたびに、監督の当たり前ことを徹底してやるというこだわりと、その質の高さを常に追い求める厳しさを感じます。

さて、波佐見高校には、皆さんに、特に身につけて欲しい「当たり前のこと」があります。徹底してこだわって質を上げてほしい「当たり前のこと」があります。それは、相手に伝わる挨拶、心のこもった掃除、制服の端正な着こなし、学力が身につく勉強です。例えば、相手に伝わる挨拶について考えてみましょう。

朝校門に立っていると全員が挨拶をしてくれます。しかし、挨拶の仕方は人それぞれで、皆さん全員が伝わる挨拶をしているかというとそうではありません。声が全く出ない人、目をあわせない人、笑顔になれない人は、残念ながら伝わってきません。挨拶は、お互いの存在を認める言葉であり、相手に対するいたわりを込めた言葉です。相手に伝わる挨拶ができているか、もう一度、自分の挨拶の仕方、そしてその質について、意識することから始めてみてください。心のこもった掃除、制服の端正な着こなし、学力が身につく勉強についても、その質がどれほどのものなのか、強く意識して各自で振り返ってみてください。自分で自分のことがよくわからなかったら、周囲の人に謙虚な態度で教えてもらってください。そうすれば、皆さんが「当たり前のこと」をどれだけやれているか、その質はどうなのかが、よくわかると思います。 教えてもらうことで、「当たり前のこと」を当たり前にやり、その質を上げることができると思います。

「当たり前のこと」が無意識にできるようになれば、その質は必ず向上していきます。最終的には、それが皆さんの「能力」となっていくのです。毎日のよいことの繰り返しは、素晴らしい能力として身につきますし、逆に悪いことの繰り返しは悪い癖として身についてしまいます。高校時代に得た能力や習慣という「当たり前のこと」は、間違いなく一生に影響するのです。素晴らしい能力を獲得し幸せな人生を送るためにも、自分が既に習慣としている考え方や行動を今一度見つめ直し、新しい年の真っ白いカレンダーにその努力した証一つ一つを確実に残していきましょう。

（野田定延）

転任者紹介

学校に早く慣れ、皆さんの力になりたいです！

椋本千帆（むくもとちほ）先生（保健体育）

２歳から体操を始め、体操一筋で一生懸命頑張ってきました。身体を動かすことが大好きなので、皆さんと一緒に体育を通して楽しさ・充実感を体験したいと思います。よろしくお願いします。

岩﨑美和（いわさきみわ）先生（事務室）

趣味は雑貨屋巡りです。休日は公園や図書館へよく行きます。礼儀正しく元気に挨拶してくれる生徒さん達に大変好感が持てました。頑張りますのでよろしくお願いします。

●人権・同和教育！　《お互いにできることを補い会おう！》

1月20日（水）のLHR時に『秋桜の咲く日』というタイトルの映画を生徒全員で鑑賞しました。音声の不具合で、主音声が聞き取りにくい状況が発生するというトラブルにもかかわらず、生徒達は私語もせず一生懸命鑑賞してくれました。また、上映後に教室で書いた感想文から、生徒達が映画の内容を真摯に受け止めたことがうかがえました。あらすじは、発達障害を抱えた青年が介護施設で働き始めるものの、病気のことを知らない周囲とうまくコミュニケーションがとれずにトラブルをおこしてしまう、というものです。「目に見えない障がいは周りの人からは気づきにくく、誤解が生じてしまうことがわかった。日常の生活でも、自分と違うから普通ではないという偏見を持たず、ただ苦手なだけであってその人が悪いわけではないから、違いを理解してサポートしたいと思った」という感想や、**「目に見える障がいは、誰かが助けてくれると思うが、目に見えない障がいは、その障がいを理解している人でない限り、『変わった人』としか見られない。でも、世の中にはいろいろな人がいる。一人一人の個性として理解することが大切ではないか」**という意見の生徒もいました。もしかすると、周囲にも「他人の気持ちがわからない、コミュニケーションがうまくとれない」という人がいるかもしれません。相手も困っているかもしれないという想像力を私たちも持って「ジグソーパズルのように、お互いにできることを補い合って」生きていきたいものです。**「必要としてくれる人間は必ずいる」**という言葉を忘れずにしていきましょう。　（図書研修部主任　神宮美代子）

●長崎県吹奏楽祭　《チーム波佐見 ここにあり！》

1月16、17日の2日間、佐世保市民会館において長崎県吹奏楽祭が開催されました。この吹奏楽祭は幼稚園、小中高、大学、職場一般と幅広い年齢層の方々が参加し「吹奏楽のことを一人でも多くの方に広め、吹奏楽人口を増やしたい」という目的のもと毎年開催されている吹奏楽の祭典です。今回は１曲目に藤田玄播作曲の「切支丹の時代」、２曲目は波佐見高校野球応援メドレーを演奏しました。「切支丹の時代」は大編成でないと演奏が成り立たない難しい曲なのですが、引退した3年生にも協力してもらい何とか完成させることができました。野球応援メドレーは波佐見高校の特色を披露するため、野球部有志10名に協力してもらい野球応援の様子を再現しました。野球部がステージに整列し「ドラゴンクエスト」のテーマが流れると、一瞬にして会場が波佐見高校カラーに染まりました。**「いけいけ！波佐見！おせおせ！波佐見！」**の力強い掛け声と共にメドレーの最後を「あまちゃん」で締めくくりましたが、吹奏楽部は勿論、ステージと客席にいる野球部全員が息の合った野球応援を披露したことで、他校生徒をはじめ一般のお客さんを巻き込んだ賑やかなステージとなりました。運動部と一緒にステージを盛り上げたことは、吹奏楽祭始まって以来のことで吹奏楽関係者にも大変好評だったようです。まさに**「♪チーム波佐見♪ここにあり」**と波佐見高校をアピールするよい機会となりました。　（吹奏楽部顧問　大小瀬泉子）

「切支丹の時代」は難易度の高い曲でしたが、本番では激しい争いや処刑、祈りなどを表現することができ、良い雰囲気を作ることができました。野球部応援メドレーでは、野球部全員に協力してもらい、会場を野球場に変えることができました。吹奏楽祭の歴史に名を残せ、楽しい「祭り」にすることができたと思います。　（吹奏楽部長　真木莉穂）

波佐見高校に『尾木ママ』あらわる！？

1月22日高大連携事業「長崎県立大学出張講義」を実施しました。今回は自称(！？)『長崎の尾木ママ』こと長崎県立大学経済学部流通・経営学科　教授　村上則夫（ムラカミノリオ）先生をお招きして、『おもしろ［情報］ゲーム』というテーマでの授業を実施しました。対象者は1，2年生のBコース約６０名の生徒・アクティブラーニング形式の講義でした。村上先生は見た目だけではなく、しゃべり方、所作等も大変似ていらっしゃって、とても和やかな雰囲気でした。イソップ童話の「カラスと水差し」の話が導入で最後には空飛ぶ絨毯の出所ともいえる「アフマッド王子と妖精パリ・バヌー」の話を元にした題材(調べました(笑))が出され、活発な議論が交わされました。「あるところに三人の息子を持つ国王がいました。父王は長男に『空飛ぶじゅうたん』次男には『見たいものが見える望遠鏡』三男には『命の リンゴ』をあげました。ある時長男が病気の姫を見つけ、それぞれが活躍し姫を助けました。姫を助けた一番の功労者が姫と結婚できる。さあ、君たちが国王なら誰を結婚させるか？」大変興味のある題材で、生徒は盛んに意見を出しあい最終的には三男に多くの支持者が集まりました。その結果、先生のまとめでは驚くべきことでした。それぞれ、３兄弟の誰を重視するかというのは、**情報学(長男)、流通・貿易学(次男)、医学・健康学等(三男) に興味があるんだよというまとめ**でした。生徒のみならず、教員の立場からも大変勉強になる講義でした。　（進路主任　宮﨑　恵）

第14回HTB長期・実践的インターンシップ　研修及び発表会

平成２７年１２月１９日から平成２８年１月３日にかけて、ハウステンボスにて長期・実践的インターンシップを実施し、２１名の生徒が参加しました。実施にあたり、事前に２日間事前研修を行いました。普段のオアシス運動の成果もあり挨拶や返事に関して先方の担当者からお褒めの言葉をいただきました。事前研修では前回までよりも、より高度な研修内容で、具体的な場面を設定して行われました。

実際の研修では、各店舗に分かれて研修を行い、労働のやりがいや意義、お金の尊さ、コミュニケーション力や英語力の必要性等を感じ取ったようです。以下は研修発表会で生徒が発表した内容を抜粋したものです。**「１番に感じたことは、親や親戚への感謝でした。普段もらっているお小遣いを与えるためにはどのくらい働いて、どのくらい大変なのかが少しですがわかりました。今まで以上に家族に感謝しお小遣いも大切に使おうと思いました」**「今回のインターンシップで一番印象に残っているのは、仕事をしている人達の真剣さです。休憩時間は笑いながら会話をしていても、休憩が終わるとスイッチを入れ変え集中していました。社員の皆さんはオンとオフの切り替えが上手で、こういうところが私達と社会人の大きな差だと思いました」「インターンシップを終えて思ったことは、働く事は思っていた以上にきついことだと実感しました。そして働く上で必要最低限の英語力は必要だと感じました」　（進路副主任　小佐々　武）

平成28年2月の行事予定

９日から修学旅行（２年生）

2月4日　推薦入試	2月5日　校内ロードレース大会
2月8日～10日　ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ 1年	2月9日～12日　修学旅行（２年生）
2月12日　ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ 発表会	2月17日　合格体験発表会
2月22日～25日 1･2年学年末考査	2月29日　卒業式予行・表彰等

水滴石穿
（すいてき　せきせん）
コツコツと少しずつでも努力を続けなさい。いずれ目標にたどり着くはずです。
（平林宏幸）